

第112期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

 **株式会社ミツウロコグループホールディングス**

「連結注記表」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.mitsuuroko.com/>) に掲載することにより株主の皆様へ提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 : 35社
- ・主要な連結子会社の名称 : 株式会社ミツウロコヴェッセル
株式会社ミツウロコエナジーフォース
株式会社ロジトライホールディングス
ミツウロコグリーンエネルギー株式会社
株式会社ミツウロコヴォイジャーズ
株式会社ミツウロコ
株式会社ミツウロコクリエイティブソリューションズ
- ・連結の範囲の変更 : 当事業年度よりTRIFORCE INVESTMENTS PTE.LTD.を新たに設立し、連結の範囲に含めております。

② 非連結子会社の状況

該当事項はありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した関連会社の状況

- ・持分法適用の関連会社数 : 6社
- ・会社の名称 : 新潟サンリン株式会社
株式会社富津ソーラー
株式会社水郷潮来ソーラー
入間ガス株式会社
ジャパンエナジック株式会社
大城エネルギー株式会社

② 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・主要な会社の名称 : 伊香保ガス株式会社
東松山ガス株式会社
- ・持分法を適用しない理由 : 持分法非適用会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式 - 持分法非適用関連会社株式については、移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの - 連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの - 移動平均法による原価法を採用しております。

② デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ - 時価法を採用しております。

③ たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

商品 - 主に移動平均法を採用しております。

製品 - 主に移動平均法を採用しております。

原材料及び貯蔵品 - 主に先入先出法を採用しております。

④ 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

- 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。また、電力事業を行っている一部の連結子会社の機械装置については、定額法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、主として法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

- 定額法を採用しております。

なお、のれんについては、その効果の及ぶ期間（主に5年または10年）に基づく定額法を採用し、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売数量に基づく償却額と残存有効期間（3年以内）に基づく定額法による償却額とのいずれか大きい金額を計上する方法を採用し、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

- リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

リース資産

⑤ 引当金の計上基準

貸倒引当金

- 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

- 従業員に対して支給する賞与に充てるため設定しており、会社規程に基づく支払所要額をもって計上しております。

役員賞与引当金

- 一部の連結子会社は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

株式給付引当金

- 役員株式給付に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要給付額を計上しております。

役員退職慰労引当金

- 一部の連結子会社は役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要給付額を計上しております。

⑥ ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

- 原則として繰延ヘッジ処理によっております。

なお、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段) (ヘッジ対象)

金利スワップ 借入金の利息

ヘッジ方針

- 金利変動の損失可能性を減殺する目的で行っております。

なお、ヘッジ取引については、市場リスク管理規程に基づき、取締役会の承認により実施しております。また、取引の実行管理はファイナンス&コントロールセンターで集中して行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

- ヘッジ手段及びヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計を半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にしてヘッジ有効性を評価することを原則としております。

なお、当連結会計年度末に存する金利スワップについては、ヘッジ効果が極めて高いことから有効性の評価を省略しております。

⑦ その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

- － リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

退職給付に係る会計処理の方法

- － 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主に10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。また、一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

消費税等の会計処理について

- － 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当連結会計年度の年度末に係る連結計算書類から適用し、連結計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

（重要な会計上の見積り）

会計上の見積りは、連結計算書類作成時に入手可能な情報に基づいて合理的な金額を算出しております。当連結会計年度に係る連結計算書類に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼす可能性がある項目は以下のとおりです。

1. 固定資産の減損損失の認識の要否

(1)当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

フーズ事業に関する店舗固定資産の帳簿価額は486百万円であり、新型コロナウイルス感染症の影響により一部の店舗で継続して営業損失が計上されていることから、減損の兆候があると判断し、減損損失の計上の要否について検討を行いました。検討の結果、当該事業の一部の店舗について、割引前将来キャッシュ・フローが有形固定資産の帳簿価額86百万円を超えると判断されたため、減損損失は計上しておりません。

(2)会計上の見積りの内容について連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

当社グループは、原則として、事業用資産について店舗を基準としてグルーピングを行っています。減損の兆候があると認められる場合には、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定します。判定の結果、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回り減損損失の認識が必要とされた場合、帳簿価額を回収可能価額（正味売却価額又は使用価値のいずれか高い価額）まで減額し、帳簿価額の減少額は減損損失として認識されます。また、フーズ事業の将来キャッシュ・フローの見積りは、中期事業計画を基礎としており、特に在宅需要並びにテイクアウト、デリバリー等、多様化するニーズを踏まえ、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した店舗の来店客数が緩やかに回復するとの前提に基づく売上高の増加や店舗ブランドの変更等に伴うコスト削減などを主要な仮定として織り込んでいます。こうした施策の効果の予測は経営者の判断により高い不確実性を伴い、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。

4. 追加情報

（取締役に対する業績連動型株式報酬制度）

当社は、当社の監査等委員である取締役以外の取締役（社外取締役を除きます。以下「対象取締役」といいます。）に対して、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、新たな業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（Board Benefit Trust））」（以下「本制度」といいます。）を導入しております。

(1)取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、当社の対象取締役に対して、当社が定める役員株式給付規定に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭が信託を通じて給付される業績連動型の株式報酬制度です。なお、当社の対象取締役が当社株式の給付を受ける時期は、原則として対象取締役の退任時となります。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く）により純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、164百万円及び267,900株であります。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

持分法適用関連会社と金融機関との間で締結した借入契約に基づく債務の担保として関係会社株式593百万円を供しております。

なお、金融機関借入に対して担保に供している建物及び構築物1百万円、土地39百万円がありますが、当連結会計年度末現在、対応する債務はありません。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 47,112百万円

(3) 有形固定資産等に係る国庫補助金等の受入による圧縮記帳累計額

有形固定資産等に係る国庫補助金等の受入による圧縮記帳累計額は、建物及び構築物154百万円、機械装置及び運搬具2,100百万円、その他62百万円、計2,317百万円であります。

6. 連結損益計算書に関する注記

(1) 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

給料手当	6,528百万円
賞与引当金繰入額	824百万円
役員賞与引当金繰入額	6百万円
役員退職慰労引当金繰入額	31百万円
株式給付引当金繰入額	39百万円
退職給付費用	270百万円
減価償却費	1,533百万円
貸倒引当金繰入額	32百万円
のれん償却額	34百万円

(2) 固定資産売却益の内訳

機械装置及び運搬具	0百万円
土地	56百万円
その他	0百万円
計	58百万円

(3) 固定資産売却損の内訳

建物及び構築物	0百万円
土地	15百万円
その他	160百万円
計	175百万円

(4) 固定資産除却損の内訳

建物及び構築物	62百万円
機械装置及び運搬具	22百万円
除去に伴う撤去費用等	125百万円
その他	16百万円
計	227百万円

(5) 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

会社	用途	種類	場所	減損損失 (百万円)
(株)ミツウロコグループホールディングス	遊休資産	土地等	宮城県仙台市	10
ミツウロコドライヴ(株)	事業用資産	建物等	千葉県船橋市 他	2
(株)スイートスタイル	事業用資産	建物等	千葉県四街道市 他	57
(株)ミツウロコプロビジョンズ	事業用資産	建物等	埼玉県さいたま市 他	22
カールスジュニアジャパン(株)	事業用資産	建物等	東京都千代田区	31

当社グループは、減損損失を認識するにあたり、エネルギー事業及びその他事業の資産については、主に投資の意思決定単位である支店グループ別に資産のグルーピングを行い、電力事業、フーズ事業及びリビング&ウェルネス事業の資産、遊休資産については、物件別にグルーピングを行っております。また、当社の本社及び厚生施設等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。

遊休資産については、遊休状態にあり将来の用途が定まっていないことまたは市場価値の下落により、事業用資産については、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。その主な内訳は、建物及び構築物95百万円、土地10百万円、有形固定資産その他16百万円、無形固定資産その他1百万円であります。

なお、資産グループごとの回収可能価額は、正味売却価額または使用価値により測定しております。正味売却価額については、重要度の高い資産は不動産鑑定評価基準に基づく評価額を、それ以外は固定資産税評価額を基礎に公示価格相当額へ調整を行った額により評価しており、使用価値については、将来キャッシュ・フローが見込めないことから、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

(6) 店舗閉鎖損失

連結子会社における店舗閉鎖に伴って生じたたな卸資産の廃棄損、固定資産の除却損及び閉鎖店舗の除去費用等であります。

(7) 新型コロナウイルス感染症による損失

新型コロナウイルス感染症に対する政府・自治体からの各種要請等により、フーズ事業の店舗やリビング&ウェルネス事業の施設において、臨時休業を実施いたしました。当該休業期間中に発生した固定費（人件費・減価償却費・賃借料等）を新型コロナウイルス感染症による損失として、特別損失に計上しております。

7. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	62,332	—	—	62,332

(2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	363	743	—	1,106

(注) 1. 普通株式の自己株式数の増加743千株の内訳は、単元未満株式の買取りによる増加0千株、取締役会決議による自己株式の取得による増加743千株であります。

2. 当連結会計年度末株式数には、株式給付信託(BBT)に関する株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式267千株が含まれております。

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

2020年5月15日開催の取締役会決議による配当に関する事項

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額 1,433百万円

1株当たり配当額 23円

基準日 2020年3月31日

効力発生日 2020年6月22日

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれております。

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

2021年5月7日開催の取締役会において、次のとおり決議いたしました。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額 1,416百万円

1株当たり配当額 23円

基準日 2021年3月31日

効力発生日 2021年6月21日

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれております。

8. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余剰は安全性の高い金融資産で運用し、また短期的な運転資金は銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、主に借入金の金利変動リスク及び石油製品等の価格変動リスクを回避するために利用しております。

② 金融商品の内容及びリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、リース債権及びリース投資資産は顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、「グループ経理規程」に従い、月次で営業担当者が取引先毎の期日管理及び残高管理を行っております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日です。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、キャッシュ・フロー変動リスクに晒されておりますが、個別契約毎にデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、金利スワップ取引以外に石油製品等の価格変動リスクを回避する目的で商品先物取引等を行っております。デリバティブ取引の執行・管理は「市場リスク管理規程」に基づき、当社の取締役会による承認に従って実施しております。金利スワップ取引の実行管理は当社のファイナンス&コントロールセンターにおいて、商品先物取引等の実行は、連結子会社において、管理はファイナンス&コントロールセンター及び連結子会社において集中して行っております。

また、営業債務や借入金、リース債務は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰り計画を作成するなどの方法により管理しております。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「(2) 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日（当連結会計年度末）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。（（注）2. 参照）

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
①現金及び預金	25,480	25,480	—
②受取手形及び売掛金	17,504	17,504	—
③リース債権及びリース投資資産	2,270	2,270	—
④投資有価証券 その他有価証券	44,202	44,202	—
資産計	89,457	89,457	—
①支払手形及び買掛金	17,540	17,540	—
②短期借入金	2,420	2,420	—
③長期借入金	7,615	7,628	12
④リース債務	1,101	1,101	—
負債計	28,676	28,689	12
デリバティブ取引（*）			
①ヘッジ会計が適用されていないもの	(52)	(52)	—
②ヘッジ会計が適用されているもの	(58)	(58)	—
デリバティブ取引計	(111)	(111)	—

（*）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（）で示しております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

① 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

② 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

③ リース債権及びリース投資資産

リース債権及びリース投資資産の時価は、元利金の合計額を新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

④ 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託等は、取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

① 支払手形及び買掛金、並びに②短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

③ 長期借入金

長期借入金のうち、固定金利によるものは、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また当社の信用状況は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

④ リース債務

リース債務の時価は、新規に同様の取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

① ヘッジ会計が適用されていないもの

種類	契約額等 (百万円)	契約額のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 商品先物取引 石油製品 買建 売建	1,126 1,140	— —	△17 △35	△17 △35
合計	2,266	—	△52	△52

② ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の方法毎の連結決算日における契約額または契約において定められた元本相当額等は、次のとおりであります。

区分	デリバティブ 取引の種類等	主 な ヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	当該時価の 算定方法
原則的処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	431	—	△5	取引先金融機 関から提示さ れた価格等に よっている。
金利スワップ 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	3,288	2,341	△53	
合計			3,719	2,341	△58	

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券 非上場株式等 (*1)	790
関係会社株式 非上場株式等 (*2)	3,514

(*1) 投資有価証券のうち、非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「④ 投資有価証券」には含めておりません。

(*2) 関係会社株式については、非上場株式等のため、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、上表には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

区分	1年以内 (百万円)	1年超2年 以内 (百万円)	2年超3年 以内 (百万円)	3年超4年 以内 (百万円)	4年超5年 以内 (百万円)	5年超 (百万円)
現金及び預金	25,480	—	—	—	—	—
受取手形及び売掛金	17,504	—	—	—	—	—
リース債権及び リース投資資産	695	606	459	269	99	141
合計	43,680	606	459	269	99	141

(注) 4. 短期借入金、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

区分	1年以内 (百万円)	1年超2年 以内 (百万円)	2年超3年 以内 (百万円)	3年超4年 以内 (百万円)	4年超5年 以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	2,420	—	—	—	—	—
長期借入金	1,787	2,431	1,514	777	272	830
リース債務	260	227	184	136	68	223
合計	4,468	2,659	1,699	913	341	1,054

9. 賃貸等不動産に関する注記

当社及び一部の連結子会社では、神奈川県その他の地域において、温浴施設等の健康・スポーツをテーマとした施設及び賃貸用のマンション等(土地を含む)を有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は1,352百万円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価、販売費及び一般管理費に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度における増減額及び時価は、以下のとおりであります。

連結貸借対照表計上額(百万円)			当連結会計年度末の時価(百万円)
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
11,822	△400	11,422	22,152

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度の主な減少額は、減価償却費および連結範囲の変更によるものであります。

3. 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいたものです。

10. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

アスベスト除去費用、賃借事務所等原状回復費用、借地原状回復費用、土壌回復費用等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を、当該建物の減価償却期間(主に17年~43年)と見積もり、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回り(主に0.4%~2.3%)を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

(3) 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。

期首残高	1,181百万円
有形固定資産の取得による増加額	74百万円
時の経過による調整額	6百万円
資産除去債務の履行による減少額	△50百万円
期末残高	1,212百万円

11. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 1,517円47銭

(2) 1株当たり当期純利益 54円54銭

株式給付信託(BBT)に関する株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社の株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(当連結会計年度末267,900株)。また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(当連結会計年度267,900株)。

12. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

(注) 本連結計算書類中の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨て、比率については表示単位未満の端数を四捨五入して、それぞれ表示しております。

(6) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

①退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

②消費税等の会計処理について

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 追加情報

(取締役に対する業績連動型株式報酬制度)

当社は、当社の監査等委員である取締役以外の取締役（社外取締役を除きます。以下「対象取締役」といいます。）に対して、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、新たな業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（Board Benefit Trust））」（以下「本制度」といいます。）を導入しております。

(1)取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、当社の対象取締役に對して、当社が定める役員株式給付規定に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭が信託を通じて給付される業績連動型の株式報酬制度です。なお、当社の対象取締役が当社株式の給付を受ける時期は、原則として対象取締役の退任時となります。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く）により純資産の部に自己株式として計上しております。当事業年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、164百万円及び267,900株であります。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額

22,860百万円

(2) 有形固定資産等に係る国庫補助金等の受入による圧縮記帳累計額

有形固定資産等に係る国庫補助金等の受入による圧縮記帳累計額は、構築物1百万円の計1百万円であります。

(3) 保証債務

関係会社の金融機関からの借入に対し1,282百万円、買掛債務に対し77百万円の債務保証を行っております。

(4) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

① 短期金銭債権

124百万円

② 短期金銭債務

57百万円

③ 長期金銭債務

179百万円

4. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高		
① 営業収益		5,957百万円
② 営業費用		591百万円
③ 営業取引以外の取引高		170百万円
(2) 営業収益の内訳		
① グループ運営収入等		1,980百万円
② 不動産賃貸収入		2,810百万円
③ 関係会社受取配当金		1,236百万円
(3) 営業費用の内訳		
① 不動産賃貸費用		1,184百万円
② 一般管理費		2,193百万円
(4) 固定資産売却益の内訳		
建物		38百万円
土地		56百万円
借地権		1百万円
	計	96百万円
(5) 固定資産売却損の内訳		
土地		15百万円
	計	15百万円
(6) 固定資産除却損の内訳		
建物		15百万円
構築物		4百万円
機械及び装置		5百万円
工具、器具及び備品		0百万円
除却に伴う撤去費用等		83百万円
	計	108百万円

(7) 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用	途	種	類	場	所	減 損 損 失 (百万円)
遊休資産		土地等		宮城県仙台市		10

当社は、減損損失を認識するにあたり、エネルギー事業及びその他事業の資産については、主に投資の意思決定単位である支店グループ別に資産のグルーピングを行い、電力事業、フーズ事業及びリビング&ウェルネス事業の資産、遊休資産については、物件別にグルーピングを行っております。また、当社の本社及び厚生施設等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。

上記の資産については、遊休状態にあり将来の用途が定まっていないことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

その主な内訳は、土地10百万円であります。

なお、資産グループごとの回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。

正味売却価額については、重要度の高い資産は不動産鑑定評価基準に基づく評価額を、それ以外は固定資産税評価額を基礎に公示価格相当額へ調整を行った額により、評価しております。

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度 増加株式数(千株)	当事業年度 減少株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式	268	743	－	1,011

(注) 1. 普通株式の自己株式数の増加743千株の内訳は、単元未満株式の買取りによる増加0千株、取締役会決議による自己株式の取得による増加743千株であります。

2. 当事業年度末株式数には、株式給付信託（BBT）に関する株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が所有する当社株式267千株が含まれております。

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	(百万円)
子会社株式	1,827
子会社株式評価損	763
投資有価証券評価損	303
資産除去債務	183
減損損失	133
貸倒引当金	589
繰延ヘッジ損益	1
未払事業税	28
その他	64
繰延税金資産小計	3,894
評価性引当額	△3,391
繰延税金資産合計	503
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	△1,255
その他有価証券評価差額金	△7,880
子会社株式	△49
資産除去債務に対応する除去費用	△22
その他	△28
繰延税金負債合計	△9,237
繰延税金負債の純額	△8,733

7. 関連当事者との取引に関する注記
子会社等

種類	会社名	住所	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	株式会社 ミツウロコ	東京都 中央区	10	リビング& ウェルネス	(所有) 直接 100.0	役員の兼任等	不動産賃貸 収入	1,047		-
							資金の借入	687	関係会 社短期 借入金	2,025
子会社	株式会社 ミツウロコ エナジーズ フォー	東京都 中央区	10	エネルギー	(所有) 直接 100.0	役員の兼任等	資金の借入	2,760	関係会 社短期 借入金	1,939
子会社	株式会社 ミツウロコ ヴェッセル	東京都 中央区	25	エネルギー	(所有) 直接 100.0	役員の兼任等	経営指導料 収入	994	-	-
							不動産賃貸 収入	1,014	-	-
							資金の借入	5,361	関係会 社短期 借入金	6,291
子会社	株式会社 ミツウロコ ヴェッセル 東	宮城県 仙台市 青葉区	10	エネルギー	(所有) 間接 100.0	資金の借入等	資金の借入	1,277	関係会 社短期 借入金	1,266
子会社	株式会社 ミツウロコ ヴェッセル 中	愛知県 名古屋市 中川区	10	エネルギー	(所有) 間接 100.0	資金の借入等	資金の借入	1,071	関係会 社短期 借入金	1,065
子会社	株式会社 ミツウロコ クリエイティ ブソリューション ズ	埼玉県 さいたま 市 大宮区	30	エネルギー	(所有) 直接 100.0	役員の兼任等	システム 運用委託等	440	未払 費用	47
子会社	カールスジュ ニアジャパン 株式会社	東京都 中央区	95	フーズ	(所有) 直接 100.0	役員の兼任等	資金の貸付	347	関係会 社長期 貸付金	1,077
子会社	株式会社 ミツウロコ ヴォイジャ ーズ	東京都 中央区	100	フーズ	(所有) 直接 100.0	役員の兼任等	-	-	関係会 社長期 貸付金	1,573

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 上記のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 資金の借入は、キャッシュ・マネジメント・システム（CMS）によるものであります。なお、取引金額には借入金の期中平均残高を記載しております。
3. 金利については、市場金利を勘案して決定しております。
4. 経営指導料収入及び不動産賃貸収入は、契約に基づいて取引価額を決めております。
5. システム運用の委託料については、契約に基づいて取引価額を決めております。
6. カールスジュニア株式会社及び株式会社ミツウロコヴォイジャーズへの長期貸付金に対し、当事業年度において、1,929百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において1,383百万円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

8. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

アスベスト除去費用、賃借事務所等原状回復費用、借地原状回復費用であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を、当該建物の減価償却期間（18年～43年）と見積もり、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回り（1.3%～2.3%）を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	606百万円
時の経過による調整額	3百万円
資産除去債務の履行による減少額	△10百万円
期末残高	598百万円

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 1,253円85銭

(2) 1株当たり当期純利益 8円60銭

株式給付信託（BBT）に関する株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が所有する当社の株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております（当事業年度末267,900株）。また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（当事業年度267,900株）。

(注) 本計算書類中の記載金額は表示単位未満の端数を切り捨て、比率については表示単位未満の端数を四捨五入して、それぞれ表示しております。